



特集

農業機械の アフターサービス 強化に向けて

農機事業部



第7回

リンゴ

青森挽歌

(春と修羅 第一集)

こんなやみよのはらのなかをゆくときは
客車のまどはみんな水族館の窓になる
(乾いたでんしんばしらの列が
せはしく遷つてゐるらしい
さしやは銀河系の玲瓏レンズ
巨きな水素のりんごのなかをかけてゐる)
りんごのなかをはしつてゐる
けれどもここはいつたこの停車場だ

「りんご(リンゴ)」は、バラ科の植物で主要な果物。
リンゴやナシの食用部分は、
花後に花たぐ(花柄の先端)が大きくなり、
子房を包み肥大した部分。
ハスの実は、この花たぐの発達した部分にすっぽり
入っている。
電信柱が列車の窓をどんどん遷^{うつ}て行く。
玲瓏^{れいろう}とは、玉のように美しい。
銀河系の形を球形のリンゴにイメージしたものか。
ガスから、水素のリンゴと表現か。

参考資料:岩手日報社発行『続 賢治のイーハトーブ植物園』より

純情産地発 クララー KLARA vol.796 2015.11

みんなの力で!



がんばろう!岩手
純情産地いわて

contents

賢治とイーハトーブの野菜たち	02	みんなの分教場	07
特集 農業機械のアフターサービス 強化に向けて	03	イーハトーブの担い手便り	08
食から健康 ドクターズレストラン	06	純情むすめ活動記	09
		NEWS ワイドアングル	10

タイトルのKlara (クララー) は、宮沢賢治の手帳にのしるされている言葉で、エスペラント語で「晴」「暖かい」を意味します。全農の未来がそして世の中の全てが、明るく晴れやかにという願いが込められています。

検定実技試験の様子



▲自動化装置の点検



▲電気回路の故障診断



▲消耗部品の交換

高性能・高機能化する農業機械の修理整備技術習得のため、全農では「JAグループ農業機械検定制度」を実施しています。この検定では、農業機械の概論にとどまらず、実際の修理・整備に必要な知識・技能や、メーカー固有の機構・新技術、納品・安全指導など、より業務に密着した内容を検定項目に取り入れ、JA農機担当者のスキルアップを図っています。

3. アフターサービス強化に向けた人材育成

JAグループ農機事業では、農業機械をより長期間、より安心して使用いただくためのこれらハード・ソフト面の取り組みを通じたアフターサービスの強化により、担い手の機械コスト低減に貢献していきます。

岩手県におけるこれまでの述べ認定者数は、1級3名（全国15名）、2級5名（全国81名）となっています。

4. おわりに

JAグループ農機事業 「新3づくり運動（略称：News）」展開中

「3づくり」とは

(1) 人づくり

人材育成計画にもとづく職場内OJTや資格取得、講習会やJAグループ農業機械検定制度等を活用し、職員一人一人の資質向上をめざします。

(2) 仕組みづくり

職場内担当者全員で職場のルールづくりや従来からのイベントの点検・見直しをおこないます。また、物流や受渡の合理化・迅速化と職場の意識・行動の統一化・標準化をはかります。

(3) 結果づくり

イベントや推進対策等の取り組み一つ一つの目標に拘り、目標達成を積み上げ、結果として事業計画の達成、収支改善、取扱シェア向上をはかります。

運動のシンボルマークとメッセージ



News

N: 納得の
e: 笑顔を見えるまで
w: 我々は分かりやすい
s: 説明・サービス・商品をお届けします

1. はじめに

農業生産の大規模化の進展にともない、農業機械も大型化、高機能化が進み、アフターサービスにおいても、より大型化・高機能化に対応した設備や技術が求められています。今回は、農業機械のアフターサービス強化に向けた取り組みを紹介します。

2. 基幹整備センターの設置

全農いわてでは、高まる大型機械の修理・整備ニーズに対応するため、大型農機の修理・整備を集中して実施する拠点として「基幹整備センター」を新設、平成27年8月より稼働を開始しました。基幹整備センターは、全面クレーン、油圧式リフトなど大型整備に対応する設備を有し、大型農機16台を同時に修理整備作業することが可能です。また、隣接した大型保管倉庫も活用することで、多くの整備機械を受け入れ、年間を通じて平準化した修理・整備作業を可能としています。

技術面においても、内部教育の実施や外部講習の受講を計画的に実施し、さらに自動化装置の修理や調整に必要な専用OAツールなども備え、大型高性能農業機械の修理整備技術を高めています。あわせて、豊富な設備・機器を活用し、整備講習会の開催など県内JA農機担当者の人材育成拠点としての機能発揮も目指しています。

■基幹整備センターの概要

整備工場	1,116㎡（内、作業スペース16ストール、752㎡）
保管倉庫	1,473㎡（2棟合計）
洗車場	100㎡
機械設備	2.0t全面クレーン2基、埋込式油圧リフト2基等
その他	研修室（70㎡）



油圧リフトを用いた整備作業



基幹整備センター研修室

「大規模大玉トマト生産経営体を目指して」

脱サラ新規就農でトマト生産に挑戦

村上真(39歳)さんは、関市室根町に居住し、自宅はJR矢越駅から南西に約1kmの場所、北に室根山を臨むことができる丘陵地帯にあって、両親と一緒に大玉トマト栽培に取り組んでおられます。真さんは平成24年に認定新規就農者として2年間の就農準備期間を経た後、平成26年から新規就農者として農業経営を開始しました。

トマト栽培圃場は矢越地区の自宅周辺にあって、雨除けハウスによる早植え栽培と水稻育苗跡地利用による遅植え栽培に加えて露地簡易雨除け栽培

村上 真さん(関市室根町)

培の3作型による栽培方法で、平成27年には3作型で49㍏の大玉トマト栽培を行なっております。自家労働力3名に加えて2名のパートさんを6か月間雇用して、6月15日からトマトの出荷が始まり11月下旬まで出荷が行われ、今年の出荷量が50ト弱で販売額で1300万円が見込まれています。

東日本大震災が自身の進路を決定

真さんに就農の動機を伺ったところ、「平成23年3月に発生した東日本大震災が就農を考える契機となったこと。自分の将来の有り方を考えた時に、自分は地域に何か残せるだろうかと思ひ悩み、遣り甲斐が有り、能力を発揮できるものとして農業があることに気づきました。また、同級生が卒業後地元に残り農業を続けている姿を見て、身近に結果を出している同級生がいることに触発され、脱サラを決意し農業を始めることを決断できた。」なお、就農を決断した時に青年就農給付金制



村上真さん



真さんと母とTAC



イボ竹利用Uターン斜め誘引方式



圃場全体

新規就農計画の実現を目指して

JAいわて平泉農協トマト生産部会員160名の1戸平均の栽培面積は14㍏ですが、真さんは就農後5年以内に1畝のトマト栽培により販売額1500万円、農業所得600万円以上の経

■トマト栽培作型の概要

区分	面積	定植	収穫開始
雨除け早植え栽培	31a	4月中旬	6月15日
雨除け遅植え栽培	8a	6月下旬	8月20日
露地簡易雨除け栽培	10a	5月下旬	7月20日



TAC活動

識が活かされております。1畝規模のトマト栽培を可能とするためには、作業の省力化やマニュアル化、雇用労働力の確保と労務管理が課題となりますが、経営者が生産性の向上とコスト意識を持つて再生産を可能とする経営を実現し経営の継続を図るためには、就農以前の異業種の経験や人間関係が農業経営に力を発揮するだろうと考えています。

最後に生産したトマトの全量出荷を可能にする流通販売の仕組みづくりをお願いされました。トマトの商品化率は80%前後で残りの20%を販売品にしたものの個人経営では難しいことから、農業者がトマト生産に専念できるようにするためにも、規格外品にも付加価値を付けることができるシステムづくりが必要であると考えます。

村上真さんの経営概況

- 住 所： 一関市室根町矢越字朴木118の3
- 労働力： 本人、両親
- 営業規模： 水稻23a、畑49a
- 施設機械： バイブハウス9棟4,200㎡、作業舎1棟、トラクター、防除機2、管理機、田植機、トラック、軽トラック 等

真さんはトマト栽培の省力化を図るために「イボ竹利用斜めUターン誘引技術」の導入など新技術導入に積極的で、施設整備にあたり、たつとも自動環境制御システムの導入なども研究されています。早期にトマトの大規模経営を確立していただき地域農業を担っていただくことをご期待しております。



「岩手の新米」の試食や収穫体験をレポートします。



2015いわて純情むすめ
川畑 春海

10月2日にイオンモール盛岡にて開催された27年産米新米試食発表会と10月3日に紫波町内にて行われた「ABCクッキングセミナー」女性限定・稲刈りツアーに参加させていただきました。

試食発表会では「ひとめぼれ」の新米をその場で炊きあげ、お客さまに試食していただきました。多くの方が「新米」の言葉に惹かれていつしやったようで、「新米は甘くておいしい」「やつぱり新米は違うわね」など声をかけてくださり、みなさんの「新米」への関心はとても強いのだと感じました。



笑顔が
はじける

純情むすめ
活動記

ことを見聞きして考えさせられることが多くなりました。これもすべて純情むすめとして普段の生活では決して経験することのないことをさせていただけにいるからです。収穫の秋を迎え、活動する機会がさらに増えることと思いますが県内外問わずより多くのみなさまに岩手の魅力をお伝えしていきたいです。

JA全農いわての 純情人

じゅん じょう びと

趣味・特技

趣味…食べ歩き、ファッション
特技…バドミントン、早歩き

現在の担当業務

仕事は米の受渡業務をしています。卸からいただいた注文をもとにトラックの手配をして、各JAから集荷した米を卸のもとに届くまでの業務を担当しています。日々、時間との闘いなのでやりがいはい大きいです。

これからどんな職員になってみたいか

岩手の農業を支えていけるような元気あふれる職員になりたいと思います！
宜しくお願い致します。



米穀部 純情米販売課
たかはし 遼さん(23歳)

実りの秋、各地で稲刈り体験イベント開催

10月3日(土)

いわてのまんま稲刈りツアー

JA全農いわて米穀部はJA岩手ふるさと、ライスフレンド株式会社と共同で稲刈り体験イベントを実施し、関西の販売店のバイヤーなど約30名が参加しました。

参加者は、地元農家の方お手製のおにぎりや、地元産野菜を使ったお惣菜などの「こびる」を食べてから稲刈りに挑み、鎌やバイスターによる刈り取り作業を体験しました。また、刈り取った稲を乾燥のため棒のまわりに積み上げる「棒掛け」作業もおこない、楽しみながら作業する様子が見られました。

収穫されたお米は「岩手のまんま」として近畿圏のスーパー、量販店などで販売される予定です。



2015いわて純情むすめと一緒に記念撮影

10月3日(土)

ABCクッキングスタジオ「恋するおコメ」稲刈り体験

JA全農いわて米穀部はJAいわて中央と共同で、ABCクッキングスタジオ女性会員を対象とした稲刈り体験を実施しました。このイベントは、普段のレッスンで使用されている岩手県産ひとめぼれが育つ気候風土を、実際に稲刈りを体験してもらうことで感じてもらう、産地理解をさらに深めてもらうことを目的としたものです。

当日はあいにくの雨天でしたが、参加者らは慣れない鎌に苦戦しながらも、丁寧に刈り取りをおこないました。5月におこなわれた田植え体験にも参加したという女性は「春には小さな苗だったのに、こんなに大きく育っていて驚き、愛着がわいた」と感想を話しました。



ABCクッキングスタジオ女性会員の皆さんと2015いわて純情むすめ

9月29日(火)

渋民小学校稲刈り体験

盛岡市立渋民小学校の圃場にて、同小学校の5年生40名による稲刈り体験が行われました。この取組みは食育活動の一環としてJA全農いわて・JA新いわてとイオンスーパーセンター(株)が協同で実施、本年で7年目を迎えるものです。児童らは、鎌を用いて刈り取った稲を藁で束ね、稲掛けに干す「はせがけ」までの一連の流れを体験しました。今回収穫された米はイオンの店舗で販売されるほか、交流のある岩泉町立小本小学校に贈呈される予定です。



刈り取った稲を束ねる児童ら

販売促進に向け「紅いわて」をPR

9月17日(木)

「紅いわて」初競り・トップセールス

JA全農いわて園芸部は、盛岡市中央卸売市場にて県オリジナルリンゴ品種「紅いわて」の初競り・トップセールスを行いました。

開催にあたり、JA全農いわての畠山俊彰本部長が「今年は天候に恵まれ、例年より早い出荷となった。生産者の期待を一身に受けた『紅いわて』を是非、全国の皆さんに食べてもらいたい」と挨拶。生産地の上田東一花巻市長や農業関係者らと共に「紅いわて」をPRしました。その後行われた初競りには359ケースが出荷、最高品質の特秀1ケース(28個入り、10キロ)が5万円で落札されました。

今年度の出荷目標は8,500ケースと昨年度の約2.2倍。東京・大阪での試食会や量販店でのフェアを開催し、認知度向上と消費拡大を目指します。



トップセールスの様子

県産りんごの出来栄え競う

10月15日(木)

いわて純情りんごコンテスト

JA全農いわて園芸部は、北上市の岩手県農業研究センターにて、いわて純情りんごコンテスト(第1部)を開催しました。このコンテストは県内りんご生産者の生産技術の研鑽を促すと共に、消費者に「いわて純情りんご」を紹介して一層の県産りんご消費拡大を図ることを目的に、毎年開催されているものです。

今年度は、51点の出品作の中から品種の部ジョナゴールドで二戸市の平果樹園A(JA新いわて)の出品作が最優秀賞に選ばれました。審査は品種(中生種のジョナゴールド、紅玉)、総合(第1部=ジョナゴールド、第2部=ふじ、シナノゴールド 3品種の総合評価)、若者(40歳以下の生産者がジョナゴールドを出品)の3部門で実施。第2部の審査は11月26日~27日の2日間にかけて行われる予定です。

第1部の審査結果は以下の通りです。

部門	順位	出品者	該当JA
総合の部	第一位	JAいわて花巻 果樹部会 東和支部	JAいわて花巻
		JA江刺 りんご部会 青年部	JA江刺
		JAいわて中央 りんご部会 都南支部 選果場B	JAいわて中央
品種の部(ジョナゴールド)	最優秀賞	平果樹園(平 裕一)A	JA新いわて
品種の部(紅玉)	優秀賞	上野 高典	JA新いわて
若者の部	優秀賞	平 裕	JA新いわて

JAの特産品を当選者にプレゼント!

10月20日(火)

「みどりの風プレゼント」抽選会

JAいわてグループは盛岡市の岩手県産業会館にて、岩手日報9月6日号掲載「みどりの風プレゼント」の抽選会を行いました。このプレゼントはJAの農畜産物・特産加工品等のPRを目的に、毎年実施しているものです。

抽選はJA岩手県五連の田沼征彦会長、JA全農いわての畠山俊彰本部長、県内JAの組合長らが行い、応募総数2,874通から当選者50名を選出しました。今年度は賞品として「いわて牛サーロインステーキ」、「いわて奥中山高原アイス」、「江刺りんごワイン ソラーレ・アビルクシェ」など県や各JAの特産品14種類を用意。当選者には順次、賞品が発送されます。



抽選に参加した田沼会長



審査員により、厳正な審査が行われました。



編集後記

10月、収穫の秋を迎え県内各地で農業祭・収穫祭が開催されました。2015いわて純情むすめのメンバーもたくさんの会場にお邪魔させていただき、会場を盛り上げると同時に様々な人と触れ合い、純情むすめたち自身も楽しんでた様子でした。

また10月3日より、エフエム岩手のラジオ番組「純情むすめのJUNJO HEART!」がスタートしました!放送は毎週土曜日12時30分から、2015いわて純情むすめがラジオを通じて生産者と消費者の架け橋になります。(千葉)

ハイキュー!! × JA全農いわて コラボ企画実施中

食べて強くなれ! 純情産地いわて食材ボックス

JA全農いわては、全国の消費者へ岩手の安全、安心、美味しい農畜産物をPRし食べてもらうため、人気漫画「ハイキュー!!」とコラボした食材ボックスを販売します。販売数量は限定3,000個、季節に応じた岩手の旬の食材を楽しんでいただくため、3パターンの食材ボックスを1,000個ずつ限定販売していきます。

第1弾 純情産地いわて BBQ ボックス

- いわて牛 肩ロース
- いわて純情豚 ロース
- いわちく エルンテ・フェスト
- いわて純情米ひとめぼれパックご飯
- 岩手県産 BBQ 用カット野菜
(キャベツ・なす・ピーマン・ねぎ・筋床しいたけ)
- 大船渡産ミニトマト (フルティカ)
- 岩泉ヨーグルト (プレーン)



第2弾 実りの秋 新米ボックス

- 【新米】恋するおこめひとめぼれ 2kg
- 花巻 からだよろこぶ発芽玄米と9種雑穀のごはん 160g
- 花巻 からだよろこぶ発芽玄米と黒米のごはん 160g
- 県産りんご 3玉 (ふじ、シナノゴールド)
- 金田一の畑でとれたそば (250g)
- 盛岡純米じゃじゃ麺 (2食入り)
- 盛岡純米冷麺 (2食入り)
- チョコ南部 (2粒入り)
- 割りしみチョコせんべい (20g)
- おばあちゃんの南部スープ (1食分)
- 南部煎餅 (10枚入り)
- 南部スナック (14枚入り)



© 古館春一 / 集英社

? 第3弾は、11月下旬発表予定 ご期待ください!!



私たち全農グループは、
**生産者と消費者を
安心で結ぶ懸け橋**
になります。

私たちは「安心」を3つの視点で考えます。

- 営農と生活を支援し、元気な産地づくりに取り組みます。
- 安全で新鮮な国産農畜産物を消費者にお届けします。
- 地球の環境保全に積極的に取り組みます。

JA 全農いわて 総合企画課
JA 全農いわてホームページ

〒020-8605 盛岡市大通一丁目2番1号 TEL019-626-8615 FAX019-653-6145
<http://www.junjo.jp>

